市長と話そう！「ふれあいトーク」意見交換の概要

(下野市青少年育成市民会議)

(参加者)

- ・市民会議は、多岐にわたる活動を行っています。その中で、令和6年度に実施した主要な事業について報告します。
- ・「学校音楽祭」は、一昨年から自治医科大学の協力を受けて、自治医科大学地域医療研修センターで開催しています。医療の中心である自治医科大学と下野市民との融合は、大きな糧となっていると感じています。
- ・「なんでも発表会」は、なかなか表舞台に立つ機会のない子どもたちの可能性を引き出し、自己表現の場を提供することを目的としています。
- ・「親子学びあい教室」は、ネット時代の歩き方をテーマに開催しました。インターネットは、子どもたちが誤った方向に進んでしまう危険性を孕んでいることから、この企画が立てられました。
- ・「子どもまん中プロジェクト」は、学校に通うことさえ困難な子どもたちを支援したいという強い思いから発足しました。多くの支援施設がある中で、現在は国分寺養護学校を重点的な支援対象として進めています。
- ・「通学路安全横断旗配布」は、子どもたちの通学時の安全確保のために、横断旗の活用を推進してきました。今後もこの取り組みを継続していきたいと考えています。
- ・「児童表彰」は、卒業を迎える小学生を対象に、これまでの努力を称えることを目的としています。卒業式に記念品を贈呈しています。
- ・「福祉祭・センター祭・産業祭」は、市民会議の広報活動として参加してきました。今後は、ジュニアリーダースクラブ（JLC）との連携をさらに強化し青少年育成事業を推進していきたいと考えています。
- ・「“家庭の日”推進活動」は、学校現場と社会の実情との間に隔たりがあり、なかなか進展が見られない難しい取り組みとなっています。
- ・「子ども未来プロジェクト」は、当初、市民会議の皆さんも参加していましたが、最近では小中学校が主体となり、学校単位で活発に活動しています。

(参加者)

- ・「学校音楽祭」は、市内のほとんどの学校が参加しています。ゲストとして石橋高校の皆さんにも参加していただきました。今後、支援学校の皆さんにも何らかの形で参加していただけるようになれば、市内すべての学校が一体となる音楽祭になるのではないかと考えています。

(参加者)

- 「親子学びあい教室」は毎年、専門の講師を招いて開催しています。昨今、インターネットの闇バイトといった犯罪に巻き込まれる事例が増加しており、少年指導員としても危機感を覚えています。このため、インターネットに関する学び合いの重要性はますます高まっていると感じています。

(参加者)

- ・「通学路安全横断旗配布」は、横断旗だけでなく、危険と思われる箇所の防犯灯の設置

<p>などについても、地域の皆さんと協力しながら進めていく必要があると考えています。</p>
<p>(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「児童表彰」は、支援学校の卒業生にもきちんと記念品を贈呈できる体制が整いました。市内の子どもたち全員を対象とした児童表彰が実現しました。
<p>(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「福祉祭・センター祭・産業祭」では、JLCの皆さんに協力していただき、共同でブースを出展しました。JLCをはじめとする若い方々とのつながりをより一層強化していく必要があると強く認識しています。
<p>(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「“家庭の日”推進活動」は、具体的な行事の実施という点では難しい状況が続いています。今後、どのように推進していくべきか、引き続き検討していく必要があります。
<p>(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援学校の保護者からのアンケートは、支援学校下野支部の保護者の皆さんが独自に実施し、私たちに届けてくださったものです。今後の活動を検討するための重要な資料とさせていただきます。
<p>(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会への加入率の低下や育成会の減少など、子どもたちが育つ場や地域との繋がりを持つ機会が少なくなってきたと感じています。親子で悩みを抱えている方や地域に馴染めずにいる方も少なくないのではないかと思います。 ・支援学校の保護者からのアンケートは、これまで何となく接してきた部分から、一歩進んで保護者の皆さんの生の声や悩みに触れることができました。私たちに何ができるのかを考える良い機会をいただきました。
<p>(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援学校に通うお子さんの中には、床屋さんに行くことが難しく、家庭でのカットが上手くできなかつたりするという困り事を伺いました。私たちは何かできることはないかと考え、「ヘアカット講習会」を試行的に実施しました。 ・支援学校の保護者の皆さんは、地域の方々との交流を強く望んでおり、「自分たちの存在を認めてもらえる場がほしい」という切実な思いを抱いています。私たちも、何らかの形でそのような機会をつくることに協力したいと考えています。
<p>(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なんでも発表会」は、令和6年度から中学校まで対象を広げました。 ・発表することが少し苦手な子どもたちでも、小さな規模から発表できることが重要です。「発表しても良いんだ」という気持ちを持てるようになることが大切だと考えています。
<p>(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の中学校での「何でも発表会」では、科学部の子どもたちがプログラミングした作品などを多数展示してくれました。自分たちの作品を見てもらえたという喜びや、「結構高度な内容だね」といった反響もありました。 ・来年度は他の文化部の子どもたちから「ぜひ参加したい」という声が上がっています。自分たちの作品発表の場として、また自己肯定感を高める機会として、この「何でも発表会」がさらに大きく発展していければ良いと感じています。

(参加者)

・「子どもまん中プロジェクト」の一環として講演会を開催しました。テーマは「子どもたちの居場所づくりと、不登校などの課題を抱える子どもたちを減らすために」です。今後の活動において、皆さんと協力して取り組んでいければと思っています。

(参加者)

・ひきこもりや登校拒否の方を支援している団体への支援も行っています。この団体の保護者の皆さんとお話した際、皆さんが疲弊している様子伝わってきました。もっと連携を深めることができれば良いなと考えています。

・地域に戻ってきた子どもたちが、しっかりと生活できる場を作るために、その基盤となる活動を進めていきたいと考えています。

(市長)

・不登校のお子さんたちの支援については、市内でもさまざまな活動が行われています。今年度からは寺子屋のような取り組みも始まっており、連携していくも良いのではないかと考えます。

・寺子屋に参加させていただいた際、子どもたちのしっかりとした考えや、将来設計を真剣に考えている姿勢に感銘を受けました。前向きに進みたいという意欲を持つお子さんの支援については、教育委員会だけでなく、健康福祉部とも連携を図っていきたいと考えています。

(参加者)

・私たちだけでは、他の活動との連携の必要性や具体的な方法が分からない部分があります。市からのアドバイスをいただければと思います。

(参加者)

・市民会議は、青少年を育成する志のもと活動を開始しました。青少年育成のために何ができるのかを常に考え、活動を積み重ねてきた結果、多岐にわたる事業展開へとつながりました。

・下野市は「医療と福祉のまち」という特色を持っています。そのため、これまで青少年育成という観点から注力しきれなかった福祉分野にも、今後は力を入れてきたいと考えています。

・市民会議の活動内容は、もはやボランティアの域を超えているのではないかと感じる場面が増えてきました。人手不足も深刻化しています。

(市長)

・医療と福祉との連携については、私も就任当初から自治医科大学を重要な拠点と考えており、今後のまちづくりの大きなテーマにしたいと思っています。本日お話を伺った中で、具体的に連携できる可能性がいくつか見えてきたと感じています。

・障がいのある方への支援には、医療と福祉の連携が不可欠です。災害発生時の支援についても、自治医科大学と獨協医科大学、さらに福祉施設との連携を視野に入れる必要があると考えています。現在、合同での防災訓練の実施を検討しています。

(参加者)

・支援学校の保護者からのアンケートは、要望というよりも保護者の皆さんの率直な気持ちを受け止めていただければと思います。

・改めて、保護者の皆さんがさまざまな困難に直面していることを痛感しました。防災

や災害発生時の避難場所について「どこにどう連れて行けばいいのか分からない」というお話は、切実でした。

(市長)

- ・地震などの災害が発生した場合、最も懸念されるのは停電です。医療機器をはじめとする電気を使用するものが多いため、一刻も早い電源の確保が非常に重要です。
- ・避難が必要になった際の移転先の病院の確保も、平時からシミュレーションしておく必要があると考えます。合同での防災訓練の検討は非常に重要であると改めて感じています。

(市長)

- ・先日、自治医科大学の病児保育と遠隔診療に関するセミナーに参加しました。
- ・病児保育の最終的な受け入れには医師の判断が必要ですので、皆さんが安心して利用できる仕組みを検討していきます。

(参加者)

- ・子どもの急な発熱は本当に怖いものです。常に細心の注意を払い、緊張感を持って保育にあたっている保育士の姿を見ていると、安心して預けられる専門的な病児保育の場所があることが何よりも大切だと痛感します。
- ・「子育てしやすいまち」や「子どもに優しいまち」というメッセージを周囲に発信することは、今後の人口増加にもつながるのではないのでしょうか。子どもたちが安心して生活できる安定感と安心感を地域全体で築いていくことが重要だと考えます。

(参加者)

- ・支援学校の保護者の方が、「学校に通っている間はまだ良いのですが、その後のことを考えると、本当に不安で仕方がありません」と強くおっしゃっていました。

(市長)

- ・支援学校の保護者の方々の気持ちはよく理解できます。
- ・市内には障害者入所施設が限られた状況にありますが、新たな施設の開設が見込まれています。

(参加者)

- ・企業の方々は、障がいのある方を雇用したいという意欲を持っていますが、さまざまな手続きがあるため、なかなかスムーズに進まないという現状があるようです。
- ・企業側の受け入れ体制の構築や指導方法の確立など、乗り越えるべき課題は多いかもしれませんが、そうした仕組みが整い、企業と支援学校との連携が深まれば、障がいのある方々の就労支援は大きく前進すると思います。

(市長)

- ・企業の方々が障がいのある方を雇用する上で、最も大きな課題の一つとして挙げられるのが通勤手段です。公共交通機関の利用が難しい場合、誰が送迎を行うのかという問題が生じますが、企業側だけでは対応が難しいのが現状です。
- ・さまざまな課題を共有しながら、市民会議の皆さんと課題解決に向けて考えていきたいと思っています。